

学校法人上野学園
上野学園大学短期大学部
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

上野学園大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 上野学園
理事長名	石橋 慶晴
学長名	石橋 裕
ALO	飯島 和久
開設年月日	昭和27年4月1日
所在地	東京都台東区東上野4-24-12

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
音楽科		50
	合計	50

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	音楽専攻	20
	合計	20

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

上野学園大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 17 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

創立者石橋藏五郎の建学の精神「自覚」は、学園の精神的支柱として明確に示されている。明治 37 年の「上野女学校」開学以来、106 年の伝統を誇る上野学園であるが、その長い伝統に裏打ちされた教育姿勢は、現代にも十分通用するものである。すなわち、各専門に応じた技術の修得と音楽性の涵養により「文化の創造と発展とに貢献し得る人間」となることを学生自らが「自覚」するべく考慮された教育課程は、少人数制の利点を十分に生かした課程編成と相まって、私学の理想型を築いている。

教員数、校地等は短期大学設置基準を上回り、施設・設備は十分に整備されている。特に、平成 19 年に竣工した新校舎、平成 22 年に開館した新講堂「石橋メモリアルホール」は、いずれも、最新の建築技術を駆使した理想的な校舎・ホールで、その安全性・快適性は特筆すべきものである。

小規模校のメリットを生かし、教職員は、非常にきめ細かな学生対応を行っている。卒業生アンケート、同窓会との連携、併設大学編入学後の評価について大学学部長等からの報告など、卒業後の評価への取り組みがされている。

学生支援については、入学前の実技指導、入学後は基礎学力不足の学生のため補習授業の実施、学生の進度に応じた習熟度別クラスの設置、全教職員による全学生への相談対応などが取られている。就職・進学への支援体制も整っている。

教員の研究活動は、個人の演奏会の分野での活動に加え、併設大学と共催する学内外での特別公開講座や演奏会等を積極的に行っている。また、実技試験の採点や演奏会に担当教員全員が立ち会い、演奏法や教育法に関して意見を交換し合うことで、教員が教育にかかる研究を相互に深めている。

音楽科の特性を生かして開催される各種のコンサートや公開講座などに学生も加わることが、貴重な現場教育の機会となっている。草加市、日本ハープ協会と共催しているアジア唯一のハープコンクール「国際ハープフェスティバル」には、当該短期大学の学生も出演している。

理事会等の学校法人の管理運営体制は確立しており、学長のリーダーシップの下、

教授会・各種委員会は規程に基づき適正に運営されている。事務部門は事務諸規程や就業規則等の諸規程が整備されており、学校法人と教職員は互いの立場を尊重し協力体制を取っている。

財務体質については、短期大学部門及び学校法人全体ともに収支バランスが悪いが、わずかであるが余裕資金がある。収容定員充足率は低いですが、キャンパス移転を機に、新校舎・新講堂建設など教育環境の整備が自己資金で行われ、結果として充足率が徐々に改善されている。

改革・改善のためのシステムは平成 21 年度に全学的な自己点検・評価委員会を編成し、第三者評価委員会を立ち上げたばかりであるが、全学あげてシステム構築に向けて努力する姿勢がみられる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学科長と学生の個別面談（言語表現）は、コミュニケーション・スキルの能力を伸ばすとともに、教育目的・教育目標を再確認し、建学の精神「自覚」の浸透を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- すべての専門実技においてアンサンブル授業を課しており、これを「バランスのとれた人間教育」の一環として位置付けている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 平成 19 年度に建設された新校舎には、防犯カメラや電子ゲートシステム(IC カード)によるセキュリティが設置され、高度な防音機能を備えたホールやリハーサル室、レッスン室、練習室を完備している。殊に「石橋メモリアルホール」(508 席)「エ

オリアンホール」(84 席)は、学内での利用を越えて学外にも学術・芸術の発信源として機能していく可能性を秘めている。

評価領域V 学生支援

- 優秀な学生に対しては、卒業時に、石橋賞、アイルランド大使賞、平井美奈賞など、褒賞制度が制定されている。

評価領域VII 社会的活動

- アジア唯一のハープコンクールである「国際ハープフェスティバル」を草加市、日本ハープ協会及び当該短期大学・併設大学で共催し、当該短期大学の学生も出演している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域VI 研究

- 研究紀要の発行が5年に一度と少ないので、発行頻度を上げ、研究報告の機会を増やすべきである。また、研究関連の予算(特に個人研究費)が計上されていない点は修正が望まれる。

評価領域VIII 管理運営

- 過去3年間の理事会開催数は年3回と少なく、決算では多くの予算超過がみられることから、補正予算の審議などの理事会開催が望まれる。

評価領域IX 財務

- ここ数年、新校舎、講堂建設等の施設整備が行われ、余裕資金が減少しており、短期大学部門及び学校法人全体ともに支出超過であるので、収支バランスの改善が望まれる。
- 入学・収容定員の充足率の改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

100年を超える上野学園の歴史に連綿と流れる、創立者の建学の精神「自覚」は、学園の精神的支柱として明確に示されている。学生には入学ガイダンス、「自覚について」の作文の提出や学科長との面談（言語表現）などで、教職員には創立者命日に全教職員の集いにおける理事長の講話などにおいて、建学の精神・教育理念についての周知が図られている。また、学園の出版物や諸行事、公式ウェブサイトなど様々な機会や媒体を通じて広く学外にも周知を図っている。

教育理念及び教育目標なども時代の要請や、各専門・専攻の特色に合わせて絶えず見直しが行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は、建学の精神「自覚」をバックボーンとし、各専門に応じた技術の修得と音楽性の涵養により「文化の創造と発展とに貢献し得る人間」を育成することを目標にして体系的に編成されている。

課程編成は選択科目も多く、「中学校教諭二種免許状（音楽）」又は音楽療法士養成課程履修による「全国音楽療法士養成協議会認定・音楽療法士2種」の称号取得など、免許・資格取得を希望する学生にも対応し、少人数制の特性を生かした、多様なニーズにこたえるものとなっている。

シラバスは「講義要旨」として冊子化され学生に配布されており、授業内容等が明らかにされているが、記述にばらつきがあり今後の改善が望まれる。

授業評価アンケートを学生と教員双方に対して実施するとともに、習熟度別クラス

編成、補習授業、学内外での演奏機会の提供など、きめ細かい学生サービスが行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は短期大学設置基準を満たし、各教員の資格も教育・研究意欲も十分であるが、年齢層がやや高いので、学生とのジェネレーション・ギャップや次世代への引き継ぎに不安を感じる。

校地及び校舎の面積は、短期大学設置基準を満たしている。平成 19 年に完成した校舎は、最新の技術を駆使した耐震構造や防音仕様、バリアフリー、更にセキュリティ・システムなど、安全性・快適性について優れた教育環境が整えられている。

図書館も最新の設備を備え、所蔵資料や外部データベースへのアクセス環境も整えられている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定は適切に行われている。授業評価アンケートや学生との個別面談など、少人数制のメリットを生かしてきめ細かく学生の状況を把握し、授業改善や様々な企画などに反映させることで、教育目標の達成と教育効果の検証に向け努力している。また、退学者も年々減少している。

卒業後についても、卒業時満足度アンケート、卒業生アンケートに加えて、同窓会との連携、併設大学編入学後の評価を大学学部長等から報告してもらうことなど、卒業後の評価への取り組みが行われている。さらに、今後、就職先からの評価アンケートも実施する意向である。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援はきめ細かく、大学案内、ウェブサイト、オープンキャンパス、入試説明会、音楽受験講習会など、様々なメディアやイベントを通じて懇切丁寧に行われている。学習支援については、入学前の実技指導や入学時までの到達目標を明示し学生の自覚を促す配慮がされている。

入学後は基礎学力不足の学生のための補習授業の実施、学生の進度に応じた習熟度別クラスの設置、さらに、少人数であることをメリットとする全教職員による全学生への相談対応が取られている。

就職・進学への支援体制も整っている。キャリア・ディベロップメント・アドバイザー（CDA）有資格者を配属した「キャリア支援センター」を中心として、適切な進路支援が行われている。四年制大学に編入学して更に研鑽を積んでいきたい学生のためにも個別に対応して支援している。社会人学生と障がい者に対しては必要な支援体制が用意されている。

優秀な学生に対しては、卒業時に、石橋賞、アイルランド大使賞、平井美奈賞など、

褒賞制度が制定されている。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、個人の演奏会の分野での活動に加え、併設大学と共に学内外での特別公開講座や演奏会等を積極的に開催している。また、実技試験の採点や演奏会に担当教員全員が立ち会い、演奏法や教育法に関して意見を交換し合うことで、教員が教育にかかる研究を相互に深めている。

施設、設備面での環境は相応に整備され、研究費・研究旅費に関する規程もあるが、予算枠が設定されておらず、教員の申請に対応してその都度、助成するという方式である。教員の研究は、演奏会などの発表が主となるため、研究紀要の発行は5年に一度となっており十分とはいえない。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域との交流を教育・研究活動と同じく重要な事項として位置付け、音楽科の特性を生かして開催する各種の地域イベント（福祉施設や中学校での「上野学園ハートフル・コンサート」「ボランティア・コンサート」「草加市民のための一日公開講座」など）に学生も加わることで、貴重な現場教育の機会となっている。

石橋メモリアルホールの貸出開放は、地域住民をはじめとする多数の人々が、上野学園への関心・理解を深めてもらえるとともに、文化芸術や教育の発展に寄与している。

アジア唯一のハープコンクール「国際ハープフェスティバル」（草加市、上野学園大学・同短期大学部、日本ハープ協会共催）には、当該短期大学の学生も出演し地域及び国際交流の一環として特筆される。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会等の学校法人の管理運営体制は確立しているが、理事会の開催回数が少ないので増やすべきである。学長のリーダーシップの下、教授会・各種委員会は規程に基づく運営体制が確立している。

事務部門は、就業規則等の諸規程が整備されており、事務職員の任用も適切に行っている。また、事務職員も教員と同様に各学生の個性や事情に応じた支援を行い、学生からも信頼されている。

人事管理は諸規程に基づき適切に行われている。また、学校法人と教職員は互いの立場を尊重し協力体制を取っている。

教職員のコミュニケーションは円滑であるが、その状況に甘んじて、様々な学務や会議の招集、開催、記録などの処理がシステム化されることなく、慣習的に済まされている。これらの書式・様式・手順を標準化・明文化し、会議や校務処理を客観視して、自己点検・評価につなげることが望ましい。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は中期事業計画に基づく事業計画と予算が作成され、評議員会、理事会承認後、管理部より各部門長へ連絡され、予算執行に当たっては担当部門の責任者が稟議書を作成し管理部へ申請し、管理部で確認した後、決裁・承認を受けて発注している。ただし、決算書では、予算超過が生じているため、補正予算の取り組みが望まれる。

なお、財務に関しては、中期計画だけでなく長期計画も策定し、その計画に沿って、中期・短期と財務計画を立てていく必要がある。

キャンパス移転に伴い平成 19 年に新校舎、同 22 年に新講堂（石橋メモリアルホール及びエオリアンホール）が建設され、過去 3 年間の収支計算書は大きく変動し余裕資金も減少しているが、建設資金は所有資産の売却による自己資金で行われ、借入金などの負債はなく、キャンパス移転後は学生数が徐々に回復していることなどから、今後財務状況も回復するものと期待する。

学園の施設設備は、最新の工法による防災（耐震構造、緊急地震警報装置）・保安（電子ゲートシステム）・快適性（高度な防音・遮音システムとバリアフリー）に十分配慮した優れたものである。

評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 11 年に自己点検・評価検討小委員会を設置し、自己点検・評価活動への取り組みが始まり、平成 17 年から自己点検・評価小委員会が発足、平成 21 年からは本格的な取り組みが始まり、関連規程も整備されている。しかし、平成 21 年度以前の自己点検・評価報告書は教育関係を中心としたものであり、配布は学内のみにとどまり、外部への公開はされていない。また、平成 21 年度の報告書は管理運営・財務などを加えた自己点検・評価報告書として作成されたが、配布は理事、監事、評議員、学内関連部門のみにとどまっている。改革・改善については、全学的なシステムの構築に向けて努力する姿勢がみられる。